

平成25年度「文化科学研究科連携事業」についてのアンケート調査の集計結果

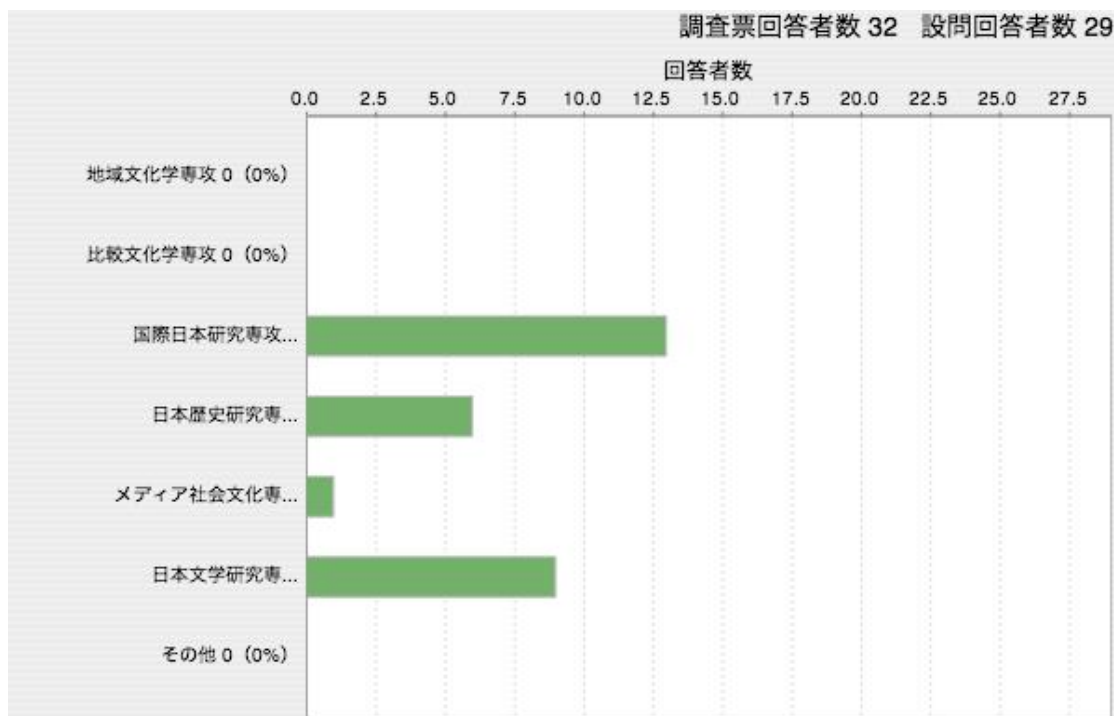
回答者毎に閲覧

<input checked="" type="checkbox"/> 集計結果を実数で表示	<input checked="" type="checkbox"/> 平均値を表示(段階評価のみ)
<input checked="" type="checkbox"/> 集計結果をパーセント(%)で表示	<input checked="" type="checkbox"/> グラフを表示 <input checked="" type="radio"/> 選択肢順 <input type="radio"/> 降順 <input type="radio"/> 昇順
<input checked="" type="checkbox"/> 無回答者数を除いて集計(パーセントの計算)	<input checked="" type="checkbox"/> 無回答者数も表示する
設問を1ページに <input type="text" value="全て"/> 表示	自由記入回答を1ページに <input type="text" value="全て"/> 表示 <input type="button" value="再表示"/>

調査票回答者数 32 / 設問回答者数 29

Q1 ご所属の専攻(修了生は在学中の専攻)

地域文化学専攻	0(0%)
比較文化学専攻	0(0%)
国際日本研究専攻	13(44%)
日本歴史研究専攻	6(20%)
メディア社会文化専攻	1(3%)
日本文学研究専攻	9(31%)
その他	0(0%)
無回答	3(9%)

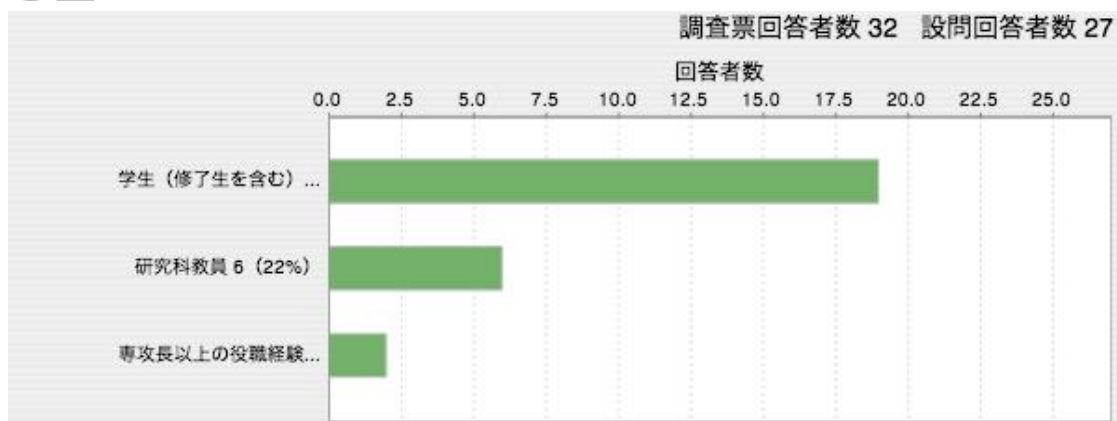


調査票回答者数 32 / 設問回答者数 27

Q2 現在のお立場

学生(修了生を含む)	19(70%)
研究科教員	6(22%)
専攻長以上の役職経験者	2(7%)

無回答 5(15%)

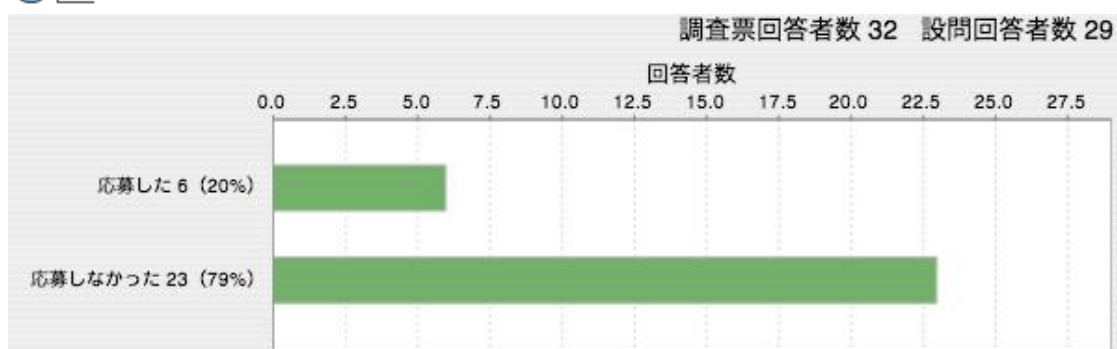


調査票回答者数 32 / 設問回答者数 29

Q3 学生派遣事業(平成25年度実施)についてお聞きます 3-a 応募の有無

応募した	6(20%)
応募しなかった	23(79%)

無回答 3(9%)



調査票回答者数 32 / 設問回答者数 6

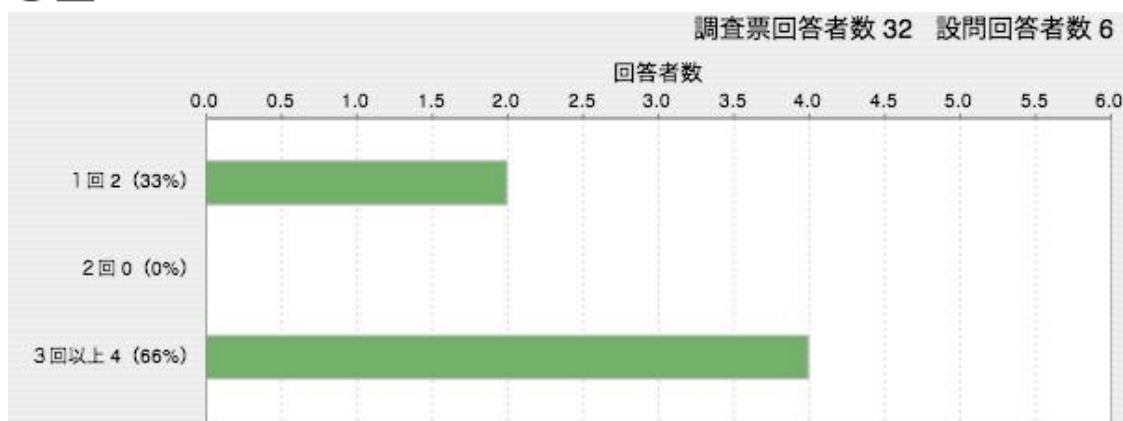
3-b 応募された方にお聞きます

3-b-1 応募回数

1回	2(33%)
2回	0(0%)
3回以上	4(66%)

無回答

26(81%)



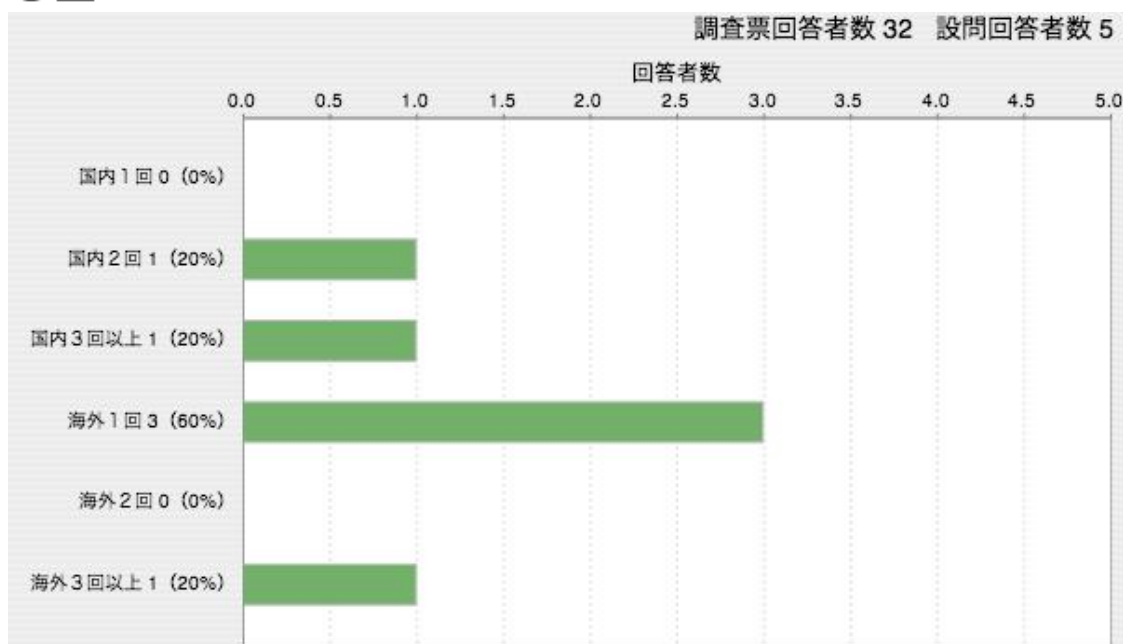
調査票回答者数 32 / 設問回答者数 5

3-b-2 国内外の別(複数回答可)

国内1回	0(0%)
国内2回	1(20%)
国内3回以上	1(20%)
海外1回	3(60%)
海外2回	0(0%)
海外3回以上	1(20%)

無回答

27(84%)



調査票回答者数 32 / 設問回答者数 5

3-b-3 応募の内容(複数回答可)

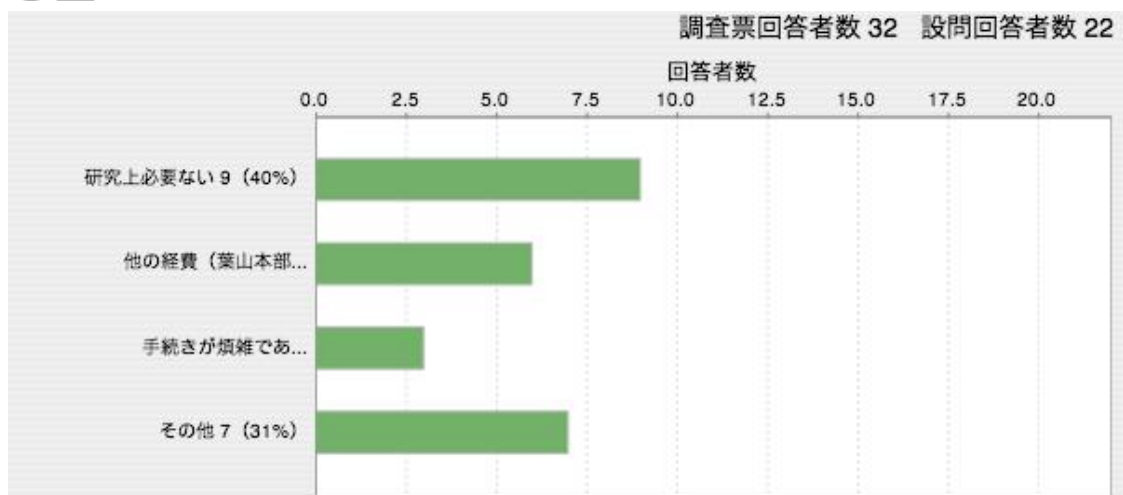
調査活動	4 (80%)
成果発表	3 (60%)
無回答	27 (84%)



調査票回答者数 32 / 設問回答者数 22

3-c 応募されなかった方にお聞きします
3-c-1 応募しなかった理由(複数回答可)

研究上必要ない	9 (40%)
他の経費(葉山本部・専攻内など)を用いた	6 (27%)
手続きが煩雑である	3 (13%)
その他	7 (31%)
無回答	10 (31%)



調査票回答者数 32 / 設問回答者数 23

3-d 学生派遣事業の必要度

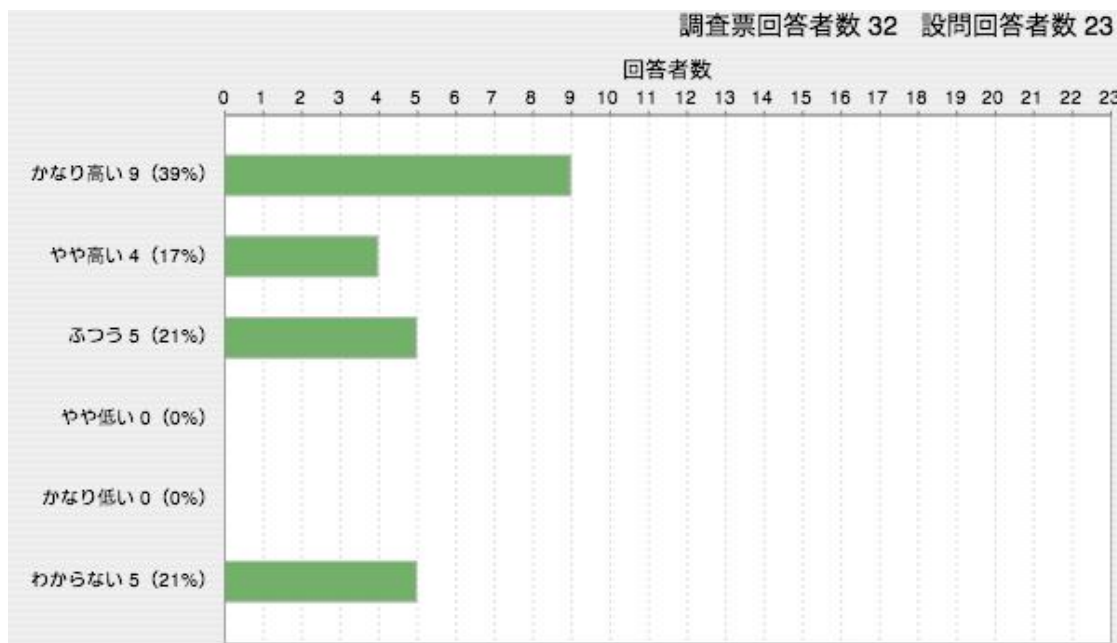
かなり高い	9 (39%)
やや高い	4 (17%)
ふつう	5 (21%)
やや低い	0 (0%)

かなり低い
わからない

0(0%)
5(21%)

無回答

9(28%)



3-e 学生派遣事業について、今後への要望など自由にご記入ください

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	どんな活動をしているのか、まったくわかりません。情報発信方法を見直してはいいかかと思ひます。 少なくともこんなアンケートを修了生に送ってくるくらいなら、基本情報の載っているHPなり、報告書なり提示していただきたいです。 上記の評価は在学中の経験と、現在大学で働いている立場から、学生派遣事業の重要性を考えてのものであります。
9	
10	在学中は遠方の機関が所蔵する文献資料の調査費用として、大いに活用させていただきました。 研究活動に際して生ずる費用(旅費・複写費用等)を原則として全て自身でまかなわなければならない大学院生にとって、このような大学側からの支援は大変ありがたく、今後ともこの事業を継続して下さいますようお願い致します。
11	
12	手続の簡便
13	

14	
15	
16	
17	
18	
19	受け入れ先の承諾などを簡易な形にしてほしい。 採択の経過がすぐに分かる形にしてほしい。
20	
21	特に思いつきません。
22	申請×切が早いので、申し込みたくてもまだ具体が決まっていない、というようなことがあります。
23	
24	
25	
26	
27	修了生でも利用出来るのであればその旨周知してほしい
28	今後も続けて頂きたいと思います。
29	
30	特になし
31	
32	

調査票回答者数 32 / 設問回答者数 29

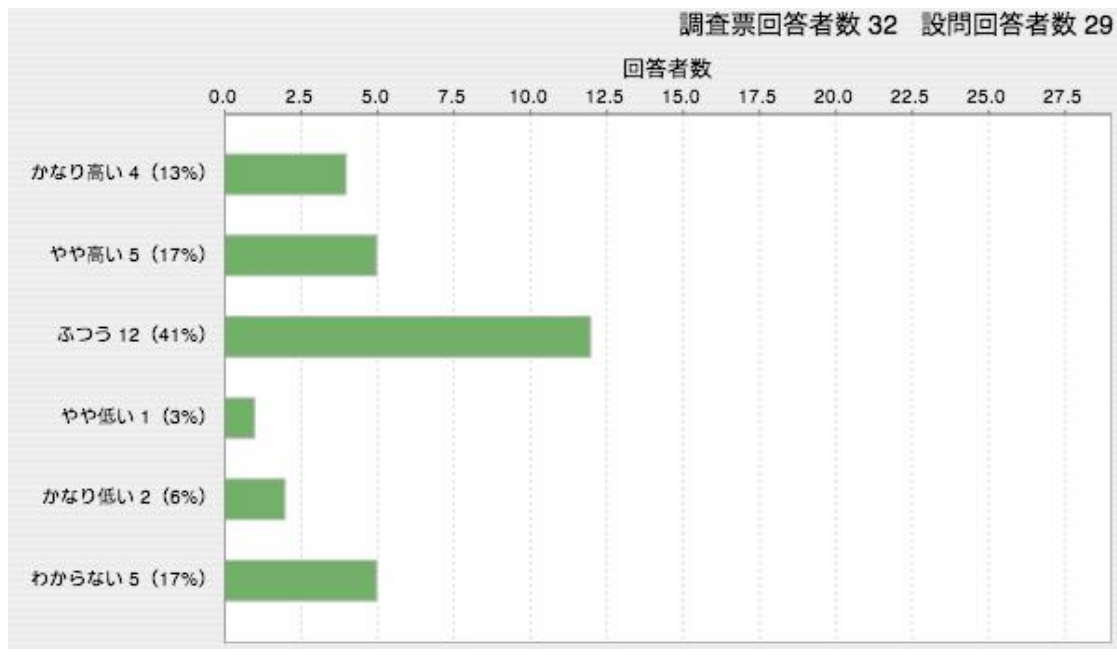
Q4 学術交流フォーラム(平成26年度開催予定)についてお聞きます

4-a 学術交流フォーラムの必要度

かなり高い	4 (13%)
やや高い	5 (17%)
ふつう	12 (41%)
やや低い	1 (3%)
かなり低い	2 (6%)
わからない	5 (17%)

無回答 3 (9%)





4-b 今後への要望など、本事業について自由にご記入ください

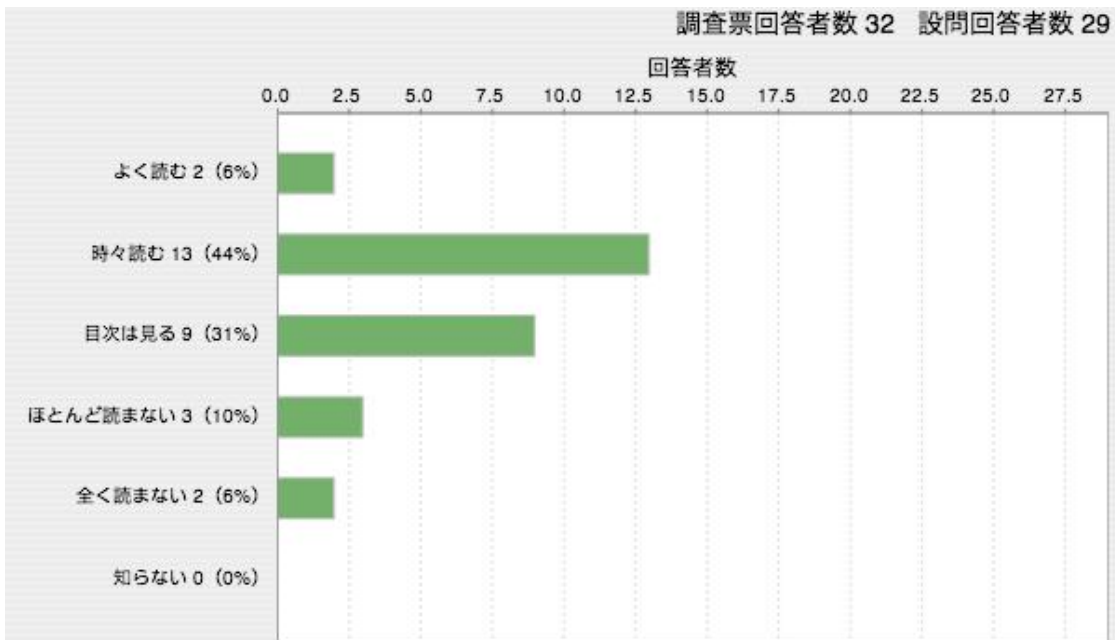
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	いつやっているのか、どんなことをやっているのか、修了生に案内を出せとは言いませんが(個人的には出した方が良いでしょう)、もう少し情報を発信してください。HPを見ても、見つかりません。
9	学術フォーラムは、学生の研究発表のみの小規模のものにしてほしいです。教員のシンポジウムはいりません。博士課程なので、学生は極力学位論文作成に集中させてあげたいです。働いている学生もいるので、企画委員ができる学生は少ないです。学生にできるだけ負担をかけないようにご配慮下さい。
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	日本研究専攻の大学院生向けの授業・講義を増やして頂ければ、学生の良い刺激になると思います。そして、英語で発表する機会を増やすと皆に良い機会を与えるでしょう。
19	
20	
21	今年は別にありません。

22	とくになし
23	
24	
25	
26	
27	特に無し
28	
29	
30	特になし
31	とてもいい事業で、今も感謝しております。続けて欲しいです。
32	

調査票回答者数 32 / 設問回答者数 29

Q5 『総研大文化科学研究』(年刊)についてお聞きます
5-a 活用度・認知度

よく読む	2 (6%)
時々読む	13 (44%)
目次は見る	9 (31%)
ほとんど読まない	3 (10%)
全く読まない	2 (6%)
知らない	0 (0%)
無回答	3 (9%)

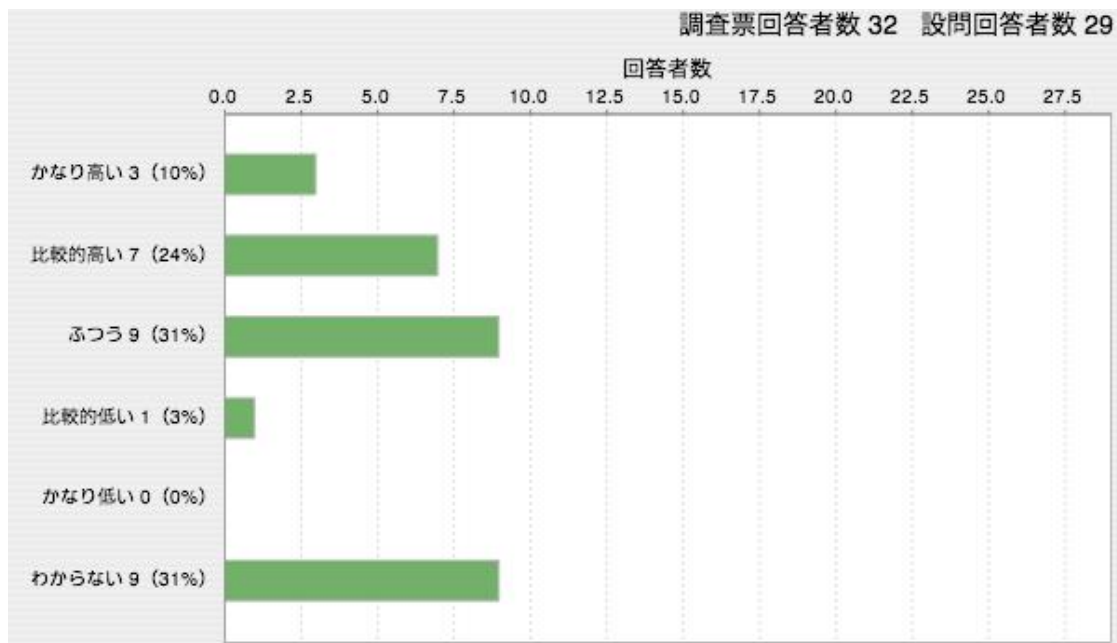


調査票回答者数 32 / 設問回答者数 29

5-b 収録論文などの水準

かなり高い	3 (10%)
比較的高い	7 (24%)
ふつう	9 (31%)
比較的低い	1 (3%)
かなり低い	0 (0%)
わからない	9 (31%)

無回答	3 (9%)
-----	--------



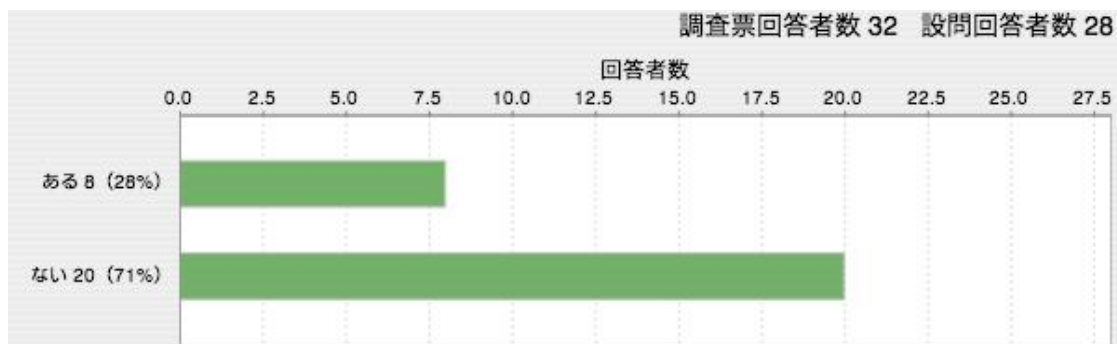
調査票回答者数 32 / 設問回答者数 28

5-c 投稿・採択

5-c-1 これまで本誌に投稿されたことがありますか

ある	8 (28%)
ない	20 (71%)

無回答 4 (12%)



調査票回答者数 32 / 設問回答者数 8

5-c-2 「ある」と答えた方にお聞きします。投稿回数(採択・不採択を問わない。投稿中を含む)

1回	7(87%)
2回	0(0%)
3回以上	1(12%)
<hr/>	
無回答	24(75%)

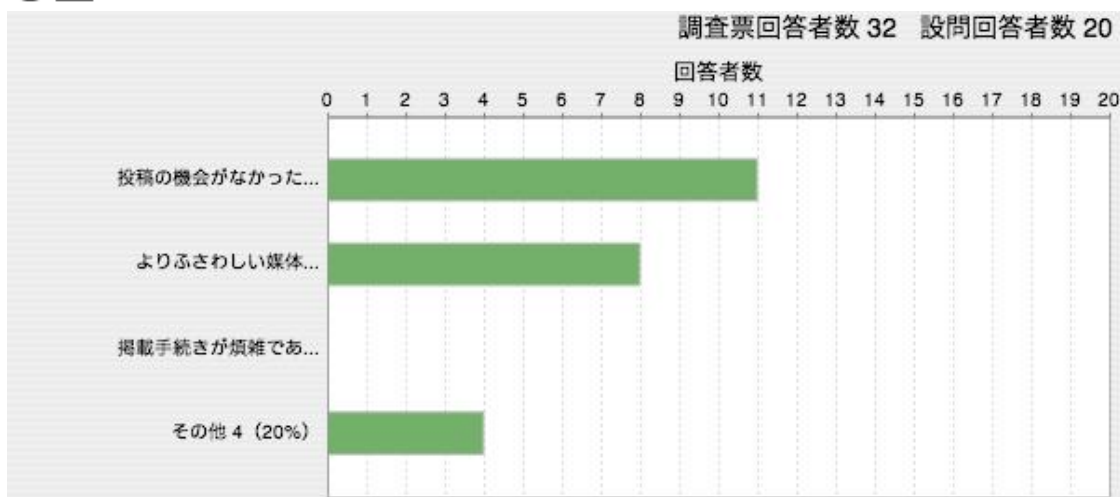


調査票回答者数 32 / 設問回答者数 20

5-c-3 「ない」と答えた方に、その理由をお聞きます(複数回答可)

投稿の機会がなかった	11(55%)
よりふさわしい媒体が他にある	8(40%)
掲載手続きが煩雑である	0(0%)
その他	4(20%)

無回答 12(37%)

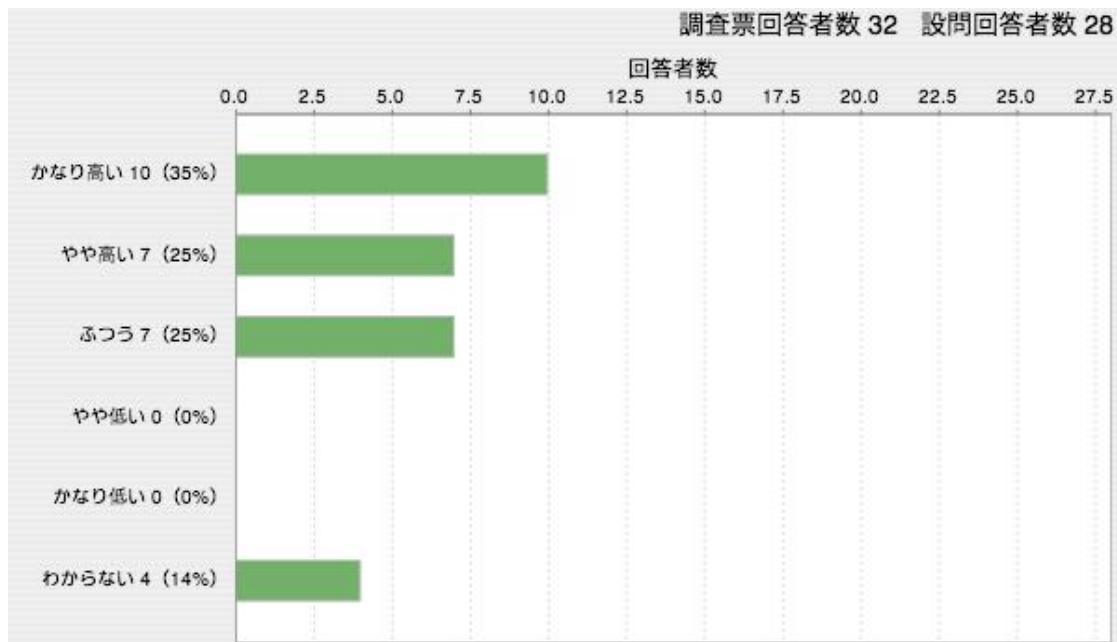


調査票回答者数 32 / 設問回答者数 28

5-d 『総研大文化科学研究』の必要度

かなり高い	10(35%)
やや高い	7(25%)

ふつう	7 (25%)
やや低い	0 (0%)
かなり低い	0 (0%)
わからない	4 (14%)
無回答	4 (12%)



5-e 『総研大文化科学研究』について、今後への要望など自由にご記入ください

1	もっと宣伝する必要があるかと思います。
2	
3	
4	どの程度に配布しているかは不明ですが、個人的に見ている範囲では配布先が少ないように思われます。
5	
6	文化科学科は、さまざまな分野にまたがるものであるため、いろいろな分野の研究をいろいろに掲載していく仕方だけでなく、特集やテーマを組んで、大まかなフレームワークをもとにして刊行するなどの工夫も必要に思われる。
7	特にない
8	せっかく電子媒体として出しているのですから、もう少しインターネットを活用するなりしてください。 また、せめて修了生には、新刊の案内くらい出してもらえませんかでしょうか。 それがダメなら、各関連学会、主要な入学可能人口を抱える大学に通知くらい出せませんかでしょうか。 すでに出しているということなら、申し訳ないのですが、少なくとも自身の関連する分野では、見たことも聞いたこともありません。
9	査読やアドバイザーボードなど、外部の研究者に依頼する件が多すぎて、編集委員の負担になっています。 最小限にできないか。
	基盤機関ごとに事情は異なるでしょうが、査読誌であることを明確にうたい、また大学院生

10	が発表しやすい場として、投稿論文の文字数制限なども比較的緩やかな当該ジャーナルの存在意義は大きいと考えています。
11	
12	
13	
14	
15	今後も継続的に刊行されると良いと思います。
16	
17	
18	
19	再投稿などの書き直しの場合、新たに資料やデータを必要とする場合があるのもっと期日を長くしてほしい。 カラーは巻末にまとめるという印刷方法を改善してほしい。図版の挿入については、採用された後で、編集か印刷のプロと再度検討し改良するシステムにしたらいかがでしょうか。割り付けまで考えていたら、学生の負担になると思います。
20	
21	特にありませんが、このような投稿の機会が設けられていることは、とてもありがたいです。
22	特になし
23	
24	
25	
26	
27	特に無し
28	
29	
30	今後、応募予定であるが、1年に一度の発行で掲載まで数年かかるとのことで心配している。
31	学生に論文の発表の場を提供してくれています。修了生にも読ませていただきたいです。
32	

Q6 事業全般について、今後の必要性・方向性など、ご意見を自由にお書きください。

1	各専攻の融合と交流が必要と思います。
2	
3	
4	
5	
6	他大学院では得にくい、貴重な支援事業がいくつもある、と個人的には感じている。今後とも継続して頂くことを願う。
7	続けることはよいと思います。
8	もう少し情報発信してください。中で閉じているだけでは、他大学の学生に魅力をアピールできませんし、教育的にも活動に疑問を感じますし、学術的なレベルも検討のしようがありません。
	極力学生の負担にならないように、運営形態を考えるべきでしょう。また、専攻長などの一

9	部の教員に仕事が偏在しないように、多くの教員に仕事が回るように工夫すべきだと思います。
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	もう少し、それぞれの専攻が交流できるようにしてほしい。
20	
21	特にありません。
22	特になし
23	
24	
25	
26	
27	特に無し
28	
29	
30	特になし
31	修了生にも読ませ、論文も掲載していただければと思います。
32	

 [調査票編集に戻る](#)